

# 中国 5 県休眠預金等活用事業 2021

## 公 募 結 果

### ■ 概要

選考結果	採択
団体名	一般社団法人フウド
代表者名	後藤 峻
申請事業名 主題	江田島版人材育成プログラムと環境プロダクトの開発
申請事業名 副題	～地域内連携で目指せ江田島ファン 1 万人～
エリア／テーマ	【広島県】 中山間地域を担う生業づくり
解決すべき社会課題	③ 社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援 ⑥ 地域の働く場づくりの支援
申請事業の概要	<p>1.解決する課題</p> <p>【魅力的な体験コンテンツの整備による交流人口増と外貨の獲得】(地域の働く場づくりの支援／社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少と高齢化の進む江田島市では域内需要も縮小していることから、域外から需要を呼び込むための経済活動(生業づくり)の拡大が重要であり、江田島市においても交流人口 100 万人(同時期の総観光客数 54 万人)を目標に掲げており、より一層の交流人口の増加が求められています。</li> <li>・本事業では、企業や学校教育のニーズに対応した人材育成プログラムを整備し、交流人口の増加と外貨の獲得を目指します。</li> </ul> <p>【海洋ゴミの削減・再資源化及び普及啓発】(里海、里山環境の保全と普及啓発)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江田島市内の海岸では大量の海洋ゴミが漂着しており、そのうちの大半が漁業由来のプラスチックゴミであることも当該エリア特有の社会問題となっています。</li> <li>・当法人では自主的な海岸清掃を定期的実施しており、イベントとして海岸清掃を行うこともあります。しかし、これらの活動だけで海洋プラスチックゴミの問題を解決するには力不足です。</li> <li>・昨今、海洋プラスチック問題は世界的にも社会問題としての認識が高まっており、日本においても様々な研究や事業が増えつつあります。それらの先行事例にならい、本事業を通じてゴミの削減のみならず、海洋ゴミの再資源化によるプロダクト開発と海洋ゴミ問題の普及啓発を図ります。</li> </ul>

## 2. 目指すべき姿

“持続的に江田島市を訪れる企業・学校との関係性構築～江田島ファン1万人構想～”

本事業を通じて毎年 1,000 人以上の交流人口創出を目指します。これらの人材ひとり一人は、江田島市の人や自然、産業、文化に深く関わることで、単なる観光客ではなく江田島市のファンとして定着させ、関係人口として継続的に関わってくれるようになります。そして 10 年後には 1 万人の江田島ファンを獲得します。

“地域経済への間接的波及効果1億円”

1万人の江田島ファンは、江田島市への来訪・滞在をリピートしてくれることとなります。また、通信販売やふるさと納税など、直接訪れなくても江田島市を応援してくれるようになります。ひとり一人が 1 万円分の応援をすることで間接的な経済波及効果として1億円を生み出すこととなります。

## 3. 実施する活動

### 【人材育成プログラムの開発】

江田島市内の社会団体や民間事業者と連携して企業向けの研修プログラムや学校向けの教育旅行プログラムの開発を行い、販売の促進を図ります。

### 【海洋ゴミのリサイクルによる環境プロダクトの開発】

江田島市の海岸に大量に漂着する海洋ゴミのリサイクルによるプロダクトを開発します。また、これまでも実施してきた海岸清掃活動をベースとした SDGs 型の研修プログラムとしてゴミのリサイクルワークショップを取り入れることで、より付加価値の高いプログラムとして展開することができます。

## 4. 出口戦略

### 【企業向けプログラムの営業戦略】

- ・企業誘致で関係を持った企業への営業
- ・広島都市圏企業への営業
- ・旅行代理店を通じた販売

### 【学校向けプログラムの営業戦略】

- ・江田島市海生交流体験協議会との連携
- ・旅行代理店及び広島市内の NPO 団体との連携

### 【リサイクル製品の販売戦略】

- ・ふるさと納税返礼品への出品
- ・環境関心層へのマーケティングプロモーション

事業実施地域	広島県江田島市
申請事業期間	(開始月)2022年4月～(完了月)2025年2月
申請助成額	10,487,500円 【内訳】直接事業費 9,382,000円、管理的経費 618,000円、評価関連経費 487,500円

## ■ 審査コメント

- ✓ 教育旅行ツアーは海外へ行けない学校の代替えとしていろんな国内ツアーが実施されていると思う。今の申請書からは新しさはない。江田島のオンリーワン部分、江田島にしかないポテンシャルを見せてほしい
- ✓ 人件費や専門家への委託費の費用が高いのが気になる
- ✓ 取り組まれる課題や事業に期待はできる
- ✓ 海洋ゴミ普及啓発等の申請書にある事業で江田島ファン 1万人に持っていけるかどうか不安なところ
- ✓ 単なるゴミ拾いではなく、海洋ゴミリサイクル、製品作成など具体案はこれからだが、そのスキームやロードマップを描ければいい形になると思う
- ✓ いろんな活動を積み上げている実績から実行力は有ると感じるので、形にはしてくれると思う
- ✓ この企画の中では具体的な企画が明示されていおらず、どこまでやるのかが不明瞭
- ✓ 着地型体験型観光が重視されている
- ✓ 江田島全体は教育旅行も組まれていて、競合しているのか、一緒にしているのかわからないが、取り組む体制は作られていると感じる
- ✓ 1万人達成の具体的な方法など気になる点もあるが、団体や地域に下地はあると感じる
- ✓ 事業実績は蓄積しており、連携できる組織もしっかり確保している。
- ✓ プログラムの環境教育としての意義は理會するが、定期する体験プログラムに対する教育旅行や企業研修のニーズがどの程度あるかが具体的に示されていない。
- ✓ 教育旅行や企業研修の顧客をどのように掘り起こすのか、プロダクツの販路開拓をどのようにやるのかが明示されていない。
- ✓ プロダクツのアイデアを子ども達から募るのは教育コンテンツとしてはよいが、それをどのように商品にブラッシュアップするのかその方法が明示されていない。
- ✓ 2つの地域課題を関連付けながら事業化する取組は面白い。立ち上げから教育旅行の受け入れは、受け入れ規模から無理がある。少人数からの研修受け入れが妥当ではないか。事故などのリスク回避策なども聞いてみたいところだ。
- ✓ 多様で複数の組織・団体がかかわれる活動であり、学校教育にも繋がる点は評価できる。
- ✓ 海洋ゴミ問題の普及啓発を主たる活動とすることで「江田島ファン 1万人」の獲得に繋がるとする事業の妥当性・実現性への懸念が資料からは払拭できない。
- ✓ 活動の趣旨が地域活動・ボランティア活動の枠組みからの脱却が課題であり、事業の継続性と事業として成果物の実証の点で疑問が残る。